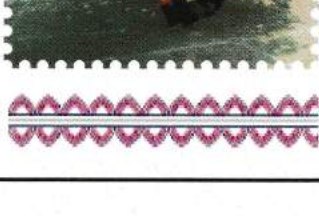


ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



附属幼稚園の運動会は、お天気が大変心配されましたが、当日は絶好の運動会日和に恵まれ、十月七日（土曜日）無事に挙行できました。万事に心を砕き、職員と共に準備下さったPTA執行部の方、学年競技等の準備にご苦労頂いた役員の皆様、前日の雨の中、会場準備に御加勢頂きましたくすのき会のお父様、そして、「自分は参加できなかったけれど」と、労いの言葉をかけて頂いた方々、全ての皆様に心より感謝申し上げます。これぞ「チーム附幼」です。本当に有り難うございました。

さて、子どもたちの演技は如何でしたでしょうか？当日の姿をありのまま受け止めていただくこと、そして、ここに至る過程を目一杯想像し、その子なりの努力の足跡を見抜いてしっかりと認めて頂くことを、繰り返しお願い致します。（もちろん正直な感想は、建設的なスタンスで担任にしっかり伝えて頂いて構いません。お待ちしております！）

子どもたちは、この運動会を通して確実に成長しました。これを、私たちは更なる成長への足がかりとして大事にし、一人一人の「みのりの秋」に導いていくつもりです。そのためにも、今後一層、保護者の皆様のご支援・ご協力が必要となります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



運動会当日の子どもたちのモチベーションは様々でした。ご褒美？やランチの焼き肉を頭に描いていた子もいたようですし、ただもう自分を見てもらえないのが嬉しくて仕方のない子もいました。「一位にならなきゃ！」と小さい胸をかわいそうなくらい緊張させている子もいました。小さな子どもたちにもプライドがあります。年中さんの競技の時だったでしょうか。退場門のところで見ていると、近くに年中児の男の子がしゃがんで始まるのを待っています。その時のことです。放送で、「4歳児さんは・・・」とナレーションがありました。すると、間髪入れずにその子が「4歳じゃない！」と言いました。私と目が合いました。はつきりと怒った顔をしていました。「？」ナレーションが間違っているのかと思いましたが、すぐにわかりました。「5歳やなあ！」と私が本人に聞こえるくらいの声で言いました。その男の子は、そう！という風にこっくりと頷き、きりっとした顔で前を向きました。自分はまだ5歳になっていない。なのに、4歳児さんと呼ばれるのは心外だ！ということなのだろうと思います。全くその通りです。その男の子は100%正しい！

子どもたちは、年長児の姿をいつも見ています。「あんなことが出来るようになりたい。」とあこがれ、間違いなくその姿に刺激を受けて成長しています。4歳から5歳になったということは、子どもにとつて、大人が感じる以上に誇らしいことなのでしょう。それは、とても大事な子どもの「プライド」でも深く見つめていきたいと思えます。

「4歳じゃなごよ！」

